

ふくとみタイムズ  
始めました



地域おこし協力隊の教蓮孝匡です。昨年8月に着任し、10カ月余りがたちました。着任以来、人口が先細るこの町に人を呼び込もうと、自然体験に関心がある子どもたちが集える農園づくりを進めています。「こども農園mikke(みっけ)」と名付け、まずは農地づくり。そして、地元農家さんたちの力を借りなが

ら、小さなイベントなども試みてきました。インターネット上の雑誌「ウェブマガジンmikke」も創刊。「手触り感のある生」をテーマに、自然とともにある暮らしが息づく福富の魅力などを発信しています。こうした折々の活動をお伝えするため、今月から「ふくとみタイムズ」を発行します。

# 難波さんお疲れ様でした

ふくとみタイムズ



# 久芳の名店17年の歴史に幕 サンサーラ閉店

オーナーの思い継ぐ新店オープン

東広島市福富町久芳のレストラン「サンサーラ」が5月末、閉店した。森の静寂に包まれた空間で、手間ひまかけた洋食を味わえる山里の名店。町内外から通った常連客に惜しまれつつ、17年間の歴史に幕を下ろした。サンサーラはオーナー兼シェフの難波久佳さん79が2003年に開いた。小学2年から高校卒業まで久芳で過ごした難波さん。夫の職場の都合で広島市内から再び久芳へ移ったのを機に、自宅敷地内で店を手がけた。飲食業の経験は皆無。シェフを雇い、フロアを担当した。4年前からはシェフも務め、1人で営業していた。気力も体力もまだみなぎっていたが、「80歳を区切りに身を引こう」と閉店を決めた。最後の営業日となった5月31日のランチ

愛されてきた山里の洋食  
惜しみ ねぎらう声

タイムは、予約で満席のにぎわい。常連客たちは、野菜サラダや牛フィレ肉のステーキなどが色鮮やかに盛りられたワンプレートセットに、舌鼓を打っていた。東広島市内から親族と訪れていた相馬幸枝さん78は、オープン当初から通う。「焼きカレーが大好きでした。閉店は残念だけど、難波さんにも少しゆっくりしてもらいたいです」と話していた。難波さんは「好きなことを皆さんに支えてもらい、本当に楽しい17年でした」と感謝。今後は、庭園の手入れや畑での野菜づくりに精を出すという。



今春からの主な活動  
◎こども農園mikkeで青空作文教室(3月下旬、4月上旬) 新型コロナウィルスの影響で休校中の子ども向けに、少人数&オール屋外での作文教室を計2回開催。広島市内から参加した小中学生たちと遊び&学びました。



◎こども農園のmikkeの田植え(5月17日) コロナで田植えイベントは中止。少数の関係者だけでひっそり集い、竹仁の「もちっこクラブ」の指導の下で昔ながらの手植えをしました。

## アラフォー隊員 きょーれんの活動



◎ウェブマガジンmikke創刊(4月1日) 福富を拠点に地球の楽しさを「見つけ」に行くコンセプトで創刊。初記事は上戸野地域センターでの味噌作りを取り上げました。

◎中国新聞で活動報告 中国新聞セレクト(6月2、4日付)にて、連載「地域おこし活動中」東広島市福富町からの報告」を執筆。コロナ禍の中でmikkeの活動や町内の食事情、町在住の外国人「ふくらし応援団」などを紹介しています。

セレクトのデジタル紙面↓



## コロナ対策し 作文教室や田植え

